

**令和4年第6回 岩沼市議会定例会
一般質問通告一覧表**

質問 順番	議席 番号	議員氏名	質問事項及びその要旨	答弁者
1	6	布 田 恵 美	<p>集合住宅等における高齢者の外出支援等について</p> <p>1. 当市においても高齢化率が高まる中、県営・市営住宅等に暮らす外出が困難な高齢者が増えている。今後、増えることはあっても減ることはないであろう高齢者に対応するため、外出支援についても検討していくべき時期に差しかかっていると考える。</p> <p>(1) 市として高齢者の外出支援をどのように考えているのか伺う。</p> <p>(2) 実際にお困りの声は届いているのか。また、現状をどのように把握しているのか。</p> <p>(3) 高齢者の活躍支援の点からも、市でできることはないのか。</p> <p>(4) 先の議員全員協議会において説明を受けた岩沼市民バス運行計画が策定された。今後、令和6年4月からの運行開始に向けてルートや運行時間帯、市民バス（路線バス、岩沼デマンドタクシー、岩沼A Iバス）の準備を進めていくと聞いているが、外出困難な高齢者対応をおざなりにしてはならないと考える。</p> <p>健康寿命を保ち、住み慣れた地域で安心して暮らしていくためにも対応策をしっかりと進めていくべきではないか。</p>	市 長
			<p>フードドライブ事業について</p> <p>1. 今回、市として3回目の開催となるフードドライブでは、食料品約 640 キログラムの提供があった。協力くださる市内スーパーや市役所、市民交流プラザなどで行う取組に、市民の関心も高まっていると感じる。コンビニチェーンやスーパーの中には独自で店内に常設回収ボックスを設置して実施していることも見聞きする。</p> <p>(1) 今回のフードドライブ開催に当たり、拠点ごとの回収量を伺う。</p> <p>(2) 今年7月定例会の一般質問において、「通年の回収ボックス設置を検討してはどうか。」と提案し「フードドライブにつきましては、通年の実施あるいは実施回数が増について、フードバンク団体や市内スーパーなどと協議をしていきたいと考えております。」との答弁があった。その後の進</p>	市 長

(続)	6	布田 恵美	<p>扱はいかがか。</p> <p>(3) 長引くコロナ禍と物価高による生活への影響、特に食料品の値上がりで厳しさを増す家庭も増えているという実感がある。一方で消費期限が迫った食材を廃棄しなければならない企業や事業所からは、フードドライブに関心を寄せ、食材支援を模索する声もある。</p> <p>是非に、常設での回収拠点を設けてほしいと願うが、いかがか。</p>	市長
2	5	高橋 光孝	<p>地域活動について</p> <p>コロナ禍において様々な活動が制限されている中、町内会・自治会、行政区・区長、消防団などの地域活動について、いろいろな課題が見えてきている。現在維持できている活動も、このままでは5年、10年、あるいは20年後には限界に達し、活動できない状態になりかねないと危惧していることから、将来的な方向性について伺う。</p> <p>1. 町内会・自治会について</p> <p>(1) 町内会・自治会の数を伺う。(新和会、契約会など名称が異なるものを含む。(以下同じ。))</p> <p>(2) 町内会・自治会の会員数の最大と最少を伺う。</p> <p>(3) 町内会長・自治会長懇談会などから、市は町内会・自治会の今後の課題をどのように把握しているのか伺う。</p> <p>(4) 町内会・自治会活動にはコミュニティづくりや清掃活動など様々な事業があるが、10年後を見据え、事業によっては外部や民間の力を借りて運営していく方法を市から提案してはどうか伺う。</p> <p>2. 行政区・区長について</p> <p>(1) 行政区・区長の人数を伺う。</p> <p>(2) 行政区の世帯数・人口の最大と最少を伺う。</p> <p>(3) 行政区ごとの世帯数・人口の違いから、一人の区長の業務量として課題や問題などは生じていないのか伺う。</p> <p>(4) 面積も考慮しながら、行政区の世帯数・人口を平均化できるよう、将来的に行政区の再編を検討をしてはどうか伺う。</p> <p>3. 消防団について</p> <p>(1) 消防団の分団数と部数を改めて伺う。</p> <p>(2) 消防団の条例定数と実員数を改めて伺う。</p> <p>(3) 水害、土砂災害、火災など災害や防災活動から</p>	市長

(続)	5	高橋光孝	地域密着・地域ごとにとすることは理解できるが、部によっては担い手不足や、住民が多い地域にも関わらず消防団が無いなどの課題もあると思う。将来的に再編の検討をするべきではないか伺う。	市長
3	14	酒井信幸	<p>公共施設等総合管理計画について</p> <p>1. 新たな新総合計画の策定内容について</p> <p>(1) 新たな新総合計画の策定を進めるに当たり、先月25日に開催した第1回職員検討委員会の中で、新庁舎建設に向けての意見等はあったのか伺う。</p> <p>(2) 新庁舎建設に向けて準備を進めていく時期と思うが、市長の見解を伺う。</p> <p>(3) 平成26年度から令和5年度までの、「いわぬま未来構想」では、持続可能な都市づくりに向けた「コンパクトシティの形成」として、「人口減少・少子高齢の進展や行財政運営の厳しさが増す中で、将来にわたって持続可能な都市であり続けるために、市街化区域を中心とした既成市街地に人口や都市機能が集約されたコンパクトシティの実現により、都市の活力の維持・向上を図ることが必要」としている。今後、新庁舎を建設するに当たり建設場所の検討も必要と思うが、市長の見解を伺う。</p> <p>2. 公共施設の統廃合について</p> <p>(1) 農村環境改善センター、ハナトピア岩沼、岩沼市民体育センターなどを統廃合を検討する施設として位置付け、できるだけ早く取り組むとしているが、時期は決まったのか。</p> <p>(2) 統廃合後の跡地利用計画をどのように考えているのか伺う。</p> <p>(3) 統廃合を行う場合は、これまでの利用者に向けて説明をしっかりと行わなければならないと思うが、市としてどのように考えているのか伺う。</p>	市長
			<p>民間施設の避難所締結について</p> <p>1. 10月に沿岸部の物流事業者と津波避難場所に活用する協定を締結したが、どのように進めてきたのか伺う。</p> <p>2. 今回、避難場所として締結した建物には、津波避難ビルの標識が取り付けられていない。今後、標識を取り付けるのか伺う。</p> <p>3. 同様に、津波が到達した位置を建物に表示するべきと思うが、いかがか。</p>	市長

(続)	14	酒井信幸	4. 今後、沿岸地区を含め民間施設との避難所の協定締結を拡大すべきと考えるが、見解を伺う。	
4	10	佐藤一郎	<p>「住み続けたいまち」に向けた施策について</p> <p>1. 仙台市、名取市、富谷市及び多賀城市は人口増の傾向にあるが、岩沼市は直近の過去5年は減少傾向となっている。</p> <p>人口減少に伴い、岩沼臨空工業団地の企業を始め様々な業種で若者を中心とした働き手の減少が課題になっていると聞く。</p> <p>岩沼市は交通利便性もよく、比較的過ごしやすい気候でもあり、公共施設や病院も充実しており、かつ、東日本大震災後は防災・減災にも力を入れていることから、大変住みやすいまちだと考えている。</p> <p>このことをもっとアピールして人口増につなげるべきだと思うが、市長の見解を伺う。</p> <p>2. 平成29年3月の策定から5年以上経過した都市計画マスタープランについて伺う。</p> <p>(1) 必要に応じて見直し・改善を行うとされているが、現在、見直しや改善をする予定はないのか伺う。</p> <p>(2) 新産業エリアに新しい産業拠点をつくるべきと考えるが、現在の進捗を伺う。</p> <p>(3) 計画を改めながら、岩沼の新しい魅力となる拠点づくりが必要だと思うが、見解を伺う。</p> <p>3. 新たな企業誘致として、空港周辺に先端技術産業などを誘致すべきと考えるが、見解を伺う。</p>	市長
			<p>がん検診について</p> <p>がんは2人に1人がかかると言われているが、早期発見や早期治療を行うことにより治癒する可能性も高まる。</p> <p>仙台市では、令和元年度より内視鏡検査を取り入れたところ、がんの発見率が高まったと伺っている。これまでも胃がん検診に係る内視鏡検査の導入を提言してきたが、岩沼市の取組について改めて伺う。</p> <p>1. 胃がん検診の手法と受診率を伺う。</p> <p>2. 岩沼市の胃がん検診のガイドラインはどのようなものか伺う。</p> <p>3. 胃及び大腸がんの検査をする際に、市内で内視鏡検査ができる医療機関の数を伺う。</p> <p>4. これまで「内視鏡検査は集団検診では難しい」と</p>	市長

(続)	10	佐藤 一郎	<p>答弁された一方で「地元の医師会と調整して研究したい」という答弁もあった。</p> <p>これまで地元医師会とどのような協議を行い、現在はどのような方向に向かっているのか伺う。</p>	市長
5	1	大村 晃一	<p>敬老のつどいについて</p> <p>1. 令和4年度の開催について</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症の感染者数が急拡大していた時期と重なり、今年も開催には至らなかったが、計画や内容などは、いつ頃から練り始めたのか伺う。</p> <p>(2) 敬老のつどい地域版について</p> <p>① 今年度の開催から、小学校区単位で「敬老のつどい地域版」として開催することになった経緯を伺う。</p> <p>② 小学校区単位で開催することのメリットは何か伺う。</p> <p>③ 小学校区単位で開催することのデメリットは無いのか伺う。</p> <p>2. 敬老祝品について</p> <p>(1) 祝品の選定について</p> <p>① 昨年までは商品券などの配布だったが、商品券を辞めた理由を伺う。</p> <p>② 今年度の敬老祝品が志賀地区産のお米になった経緯を伺う。</p> <p>③ 祝品のお米は令和3年度産の古米だったと聞いているが、おめでたい内容で配るのだから、新米を配ることはできなかったのか伺う。</p> <p>④ 祝品を調理が必要な食品とすることのデメリットなどは考えなかったのか伺う。</p> <p>(2) 配布について</p> <p>① 敬老祝品に添えて配布する予定だった説明資料を配布し忘れたと聞いているが、そのようになってしまった経緯を伺う。</p> <p>② 配布方法が様々だったため、当初もらいそびれた方や2重に受け取った方もいたと聞く。きちんと統制を取るべきではなかったのか伺う。</p> <p>3. 市長が考える今後の敬老のつどいについて見解を伺う。</p>	市長
			<p>ハナトピア岩沼について</p> <p>1. 以前の一般質問では、利活用の基本構想づくりをスタートさせ、10月には、ある程度の方向性を示し</p>	市長

(続)	1	大村晃一	<p>たいという執行部の答弁だったが、どのような方向性になったのかを伺う。</p> <p>2. ハナトピア岩沼利活用検討委員会について</p> <p>(1) 現在の検討委員会の委員はどのような基準で選ばれているのか伺う。</p> <p>(2) 検討委員会の開催が、8月から12月の期間の中で計4回の開催で終わるようだが、委員会として十分な検討が行われ、役割が達成されるのか伺う。</p> <p>3. 今後の計画について</p> <p>(1) 現在の整備イメージ案では、施設全体を大きく10のエリアに分けており、エリアごとにテーマが設けられ、様々な内容が検討されているようだが、どこまで具体化していくのか伺う。</p> <p>(2) 先日の市長の定例記者会見でのコメントにもあったように、農業に関することも取り入れていくと思うが、どのような整備をして取り入れていくのかを伺う。</p> <p>(3) 施設等の整備では、PFI等の官民連携を始め様々な手法があるが、現段階ではどのように考えているのか伺う。</p> <p>(4) 入場料など、利用者の負担について、どのように考えているのか伺う。</p> <p>4. ハナトピア岩沼は農業と花をメインとした交流施設として始まったが、本市にとって思ったような効果は得られなかったと感じている。市長は、今後の利活用として、農業振興と子どもたちの遊び場という方向性を令和4年第3回定例会で述べられていた。今度はしっかりとした計画のもとで、施設の整備や維持管理を行わなければならないと思うが、市長の見解を伺う。</p>	市長
6	3	高梨明美	<p>がん対策について</p> <p>1. 昨年の11月に子宮頸がんを予防するためのHPVワクチンの積極的勧奨が再開されたが、積極的勧奨が中止になる前の接種率と再開後の接種率について伺う。</p> <p>2. 現在、日本国内で使用できるHPVワクチンは、2価ワクチン(サーバリックス)、4価ワクチン(ガーダシル)、9価ワクチン(シルガード9)の3種類がある。</p> <p>このうち、2価ワクチンと4価ワクチンは定期接種として公費で受けられる。</p>	市長

<p>(続)</p>	<p>3</p>	<p>高 梨 明 美</p>	<p>9価ワクチンは、現時点では定期接種の対象ではないが、厚生労働省の審議会での議論を踏まえ、令和5年4月1日から定期接種開始に向けて準備が進んでいる。それに伴い、対象者への周知をどのように行う予定か伺う。</p> <p>3. 男性の4価ワクチン接種について</p> <p>(1) 2020年12月から4価ワクチンの男性への任意接種が承認された。HPVワクチンは、女性特有の子宮頸がんや外陰がんだけでなく、肛門がんや陰茎がん、中咽頭がんにも予防効果があるとされている。HPV感染は性交渉によって男女間で感染を繰り返すため、男女にワクチン接種をすることで感染の広がりを抑えることができる。男性へのワクチン接種ができることの認知度が低いことから、周知が必要と考えるがどうか。</p> <p>(2) 今年8月の審議会では、定期接種に向けて議論が開始された。現在は任意接種であるため、自費での接種となり、約5万円の費用がかかり負担が大きい。希望する男性へのワクチン接種費用を助成してはどうか伺う。</p>	<p>市 長</p>
			<p>出産・子ども・子育て支援について</p> <p>1. ヤングケアラー支援について</p> <p>国は、令和4年度予算にヤングケアラー支援のための新規事業を用意し、令和4年度からの3年間を集中取組期間として、自治体の取組を支援することとしている。国の新規事業を積極的に活用するなど、ヤングケアラーへのさらなる支援に取り組む必要があると考える。</p> <p>(1) 本市における現在のヤングケアラーの実態について伺う。</p> <p>(2) 本市における現在のヤングケアラー支援の取組について伺う。</p> <p>(3) 今後のヤングケアラー支援の取組について伺う。</p> <p>① 関係機関や専門職等の連携体制について伺う。</p> <p>② 社会の認知が進んでないことで、本人も周囲も支援が必要であることを認識できず、孤立しやすい状況にあるため、市民に広く周知することが必要と考える。そこで、周知や啓発についての取組を伺う。</p>	<p>市 長 教育長</p>

<p>(続)</p>	<p>3</p>	<p>高 梨 明 美</p>	<p>③ 支援情報の提供や相談窓口体制について伺う。</p> <p>④ 児童や教育、介護などの分野の機関が連携して支援するため、関係機関の職員に向けた研修を行いながら、人材育成を進めるべきと考えるがどうか。</p> <p>2. 祖父母世代の孫育て支援について</p> <p>女性の社会進出が進む中で、子育て世代には、祖父母の育児参加が求められている。また、手助けを求める子育て世代は数多くあり、その際には、祖父母向けのガイドブックが必要ではないかと考える。</p> <p>(1) 本市の祖父母の孫育てに関する支援の取組について伺う。</p> <p>(2) 祖父母が孫育てをするメリットや子育ての新常識、昔と今の子育ての相違点など、孫育てへの最新情報を知ることにより安心した孫育てにつながると考える。そこで祖父母手帳を作成してはどうか伺う。</p> <p>3. 出産・子育て応援交付金について</p> <p>物価高の負担軽減を柱とする総合経済対策の裏付けとなる 2022 年度第 2 次補正予算が 12 月 2 日の参院本会議で可決、成立し、補正予算には主に、高騰する電気・ガス代の負担軽減や子育て支援の充実、賃上げ促進策などが盛り込まれた。その中で子育て支援策については、「出産・子育て応援交付金事業」が、新規事業として予算化されている。</p> <p>核家族化が進み、地域のつながりも希薄となる中で、孤立感や不安感を抱く妊婦・子育て家庭も少なくない。全ての妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができる環境整備が喫緊の課題である。こうした課題に対応したこの事業は、妊娠届出時より妊婦をはじめ特に 0 歳から 2 歳の低年齢期の子育て家庭に寄り添い、出産・育児等の見通しを立てるための面談や、継続的な情報発信等を行うことを通じて必要な支援につなぐ伴走型相談支援の充実を図るとともに、妊娠届出や出生届出を行った際、それぞれ 5 万円相当の給付により、出産育児関連用品の購入費助成や子育て支援サービスの利用負担軽減を図る経済的支援を一体として実施する事業である。</p> <p>(1) 伴走型相談支援について</p> <p>本市における妊娠時から出産、子育てまでの継</p>	<p>市 長 教 育 長</p>
------------	----------	----------------	---	----------------------

(続)	3	高 梨 明 美	<p>続的な支援の取組状況について伺う。</p> <p>(2) 経済的支援について 子育てのスタートラインとして極めて重要である出産前後から3歳未満の時期に対する支援について、本市における経済的支援の取組を伺う。</p> <p>(3) 本市のこれまでの取組を生かしながら、本事業に取り組んではいかがでしょうか伺う。</p>	市 長 教育長
7	1 1	長 田 忠 広	<p>医療的ケア児・者支援について</p> <p>1. 医療的ケア児支援について 医療的ケア児とは、日常生活及び社会生活を営むために恒常的に医療的ケア（人工呼吸器による呼吸管理、喀痰吸引その他の医療行為）を受けることが不可欠である児童（18歳以上の高校生等を含む。）のことをいう。全国の医療的ケア児（在宅）は、推計約2万人である。 令和3年9月に医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律が施行され、自治体による支援が責務となった。 そこで、本市における医療的ケア児の支援状況について伺う。</p> <p>(1) 医療的ケア児と者の実数を伺う。</p> <p>(2) 医療的ケア児の保育所入所について ① 現状と対応について伺う。 ② 今後受け入れる体制づくりが必要と思うが見解を伺う。</p> <p>(3) 医療的ケア児の就学について ① 現状と対応について伺う。 ② 今後受け入れる体制づくりが必要と思うが見解を伺う。</p> <p>(4) 来年4月にこども家庭庁が設置される。これまで文部科学省、厚生労働省、内閣府、警察庁などが所管していた子どもを取り巻く行政事務を集約することを目的としている。そこで、市の計画(子ども・子育て支援事業計画・障害児福祉計画)での位置付けをどのようにしていくのか伺う。</p> <p>2. 医療的ケア児・者支援について 医療的ケア児から者に移行しても切れ目のない支援体制が必要であると思う。そこで、市の取組を伺う。</p> <p>(1) 第3期障害者計画から ① 計画には「医療的ケア児支援のための関係機</p>	市 長 教育長

(続)	1 1	長 田 忠 広	<p>関の協議の場が平成 30 年に設置済み」となっているが、どのような機関で、どのような対応をしてきたか伺う。</p> <p>② 医療的ケア児・者等に関するコーディネーター配置が必要と思う。計画には「医療的ケア児等に関するコーディネーターの配置で近隣市町での設置も視野に1人設置」となっているが、進捗状況を伺う。</p> <p>(2) 相談体制について</p> <p>① これまでの取組を伺う。</p> <p>② 「宮城県医療的ケア児等相談支援センター(愛称:ちるふぁ)」が7月1日に開設された。センターとの連携をどうしていくか伺う。</p> <p>(3) 施設整備について</p> <p>① 通所事業(デイサービス)について</p> <p>ア 現状と課題を伺う。</p> <p>イ 今後どのように対応していくか伺う。</p> <p>② 医療型短期入所事業(ショートステイ)について</p> <p>ア 現状と課題を伺う。</p> <p>イ 今後どのように対応していくか伺う。</p> <p>③ まずは2市2町など広域での取組が必要と思うが見解を伺う。</p>	市 長 教育長
8	7	須 藤 功	<p>敬老祝い金について</p> <p>1. 今年は敬老のお祝いとして、志賀産の米が配布された。どのような経緯で選定されたのか伺う。</p> <p>2. 一人当たりの単価を伺う。</p> <p>3. 配布するための経費を伺う。</p> <p>4. 配布物に農事組合法人志賀のカタログが同封されていた。敬老のお祝いに加え企業の宣伝をしていると思われるのではないか。</p> <p>5. 米の配布を今後も続けるのか伺う。</p> <p>6. 敬老祝い金の継続を検討しなければいけないと思っているが、市の考えを伺う。</p>	市 長
			<p>部活動の地域移行</p> <p>1. 部活動の地域移行を簡単に説明すると「学校単位から地域単位に変えていこう。段階的に地域単位の運営にしていく」ということで間違いないか。</p> <p>2. 今後のスケジュールとしては、令和7年度をめどに「休日の運動部活動の地域移行に向けた集中改革期間となっている」当市の取組を伺う。</p>	市 長 教育長

(続)	7	須藤 功	3. 仙台育英学園高校が甲子園で優勝した際に「青春って、すごく密なので」が流行語大賞の選考委員特別賞を受賞した。中学生も多感な時期なので、夢に向かうことができるよう取り組んでほしい。当市が地域移行を実現できるか伺う。	市長 教育長
9	8	渡辺 ふさ子	<p>より安心して安全なオーガニック給食について</p> <p>1. 市の学校給食の地元食材使用状況について、食材の利用品目数と量的な割合を伺う。</p> <p>2. 市産品はどのようなやり方で納入されているのか。</p> <p>3. 市産品の割合を増やしていく考えや方向性はあるか。</p> <p>4. 10月26日に開催された「全国オーガニック給食フォーラム～有機で元気！」で、NPO法人アジア太平洋資料センターの内田聖子共同代表は、食のグローバル化をはじめ、気候危機やコロナ禍、生物多様性の喪失など、人間の生存基盤が失われつつあることの危機感を持つことが重要であり、「学校給食は、こうした危機や貧困・格差を乗り越える重要な地域戦略だと位置付けられる」と語った。SDGsでも、あるべき農業の姿として「アグロエコロジー」が示されている。子どもたちの健康と農家を守り地域で育てる観点から、市の今後の農政の方向付けを伺う。</p> <p>5. 子どもが豊かに自立するための食育は地産地消の給食で運営することが基本であり、その中でオーガニックを取り入れることが必要と考えるが、オーガニック給食に対する見解を伺う。</p> <p>6. 人と自然が調和した持続可能なまちづくりを推進するためのオーガニック条例を制定してはどうか。</p> <p>7. 学校給食費の無料化に踏み出す自治体が増えている。繰り返しの質問であるが、再度、学校給食費の無料化を検討すべきではないか。</p> <p>8. 保育所の給食について、3歳児からはご飯が持参となっている。各家庭の様々な事情により、3歳以上児にもご飯を提供してほしいとの要望がある。実現に向けて検討してはどうか。</p>	市長 教育長
			<p>広域水道料金、流域下水道維持管理負担金について</p> <p>1. 広域水道料金、流域下水道維持管理負担金改定に向けた市町村協議が行われている。現時点での進行状況を伺う。</p> <p>2. 民営化とセットで広域化も進んでいる。広域化するほど料金は上がることが懸念されるがどうか。</p>	市長

(続)	8	渡 辺 ふさ子	3. 来年9月県議会で料金改定の提案が予定されている。責任水量（8割）の枠をはずせとの要望を上げて、負担の軽減を図るよう要求すべきではないか。	市 長
-----	---	---------	---	-----